

(1) 夏のミニフォーラム

①趣旨・目的

- ・地域課題解決に向けた取組を推進するため、地域住民一人ひとりが地域課題に関心を持ち、取組に対する機運醸成を図ることが目的です。

②開催概要

・日時	令和4年9月13日(火) 午後6時30分～8時00分
・場所	学びの里「めいりん」1階 ランチルーム
・参加者対象	・プロジェクトチームメンバー、区長、役員、地域住民の方
・参加者数	40名 (内訳)・プロジェクトチームメンバー：6名 ・区長、役員：34名
・テーマ・講師	・テーマ：「地域の未来を考えよう」 ・講師：内山秀樹氏(仁愛女子短期大学 教授)
・当日の流れ	① 開催趣旨説明 ② 基調講演 ③ 意見交換
・周知方法	ポスター、ちらし、館報

③成果と課題

- ・成果としては、当日アンケート結果より、概ね参加者からは講演内容に満足していたという結果が得られたとともに、参加者からは「行政に任せっきりでなく、地域住民の参画が必要である」、「地域の活性化には、1人でも多くの大小問わず課すべき役割を与えることが重要」、「我が町の課題を考えてみようと思った」といった今後の取組に対する建設的な意見が多くあり、機運醸成に寄与したことが読み取れます。
また、地域単位のまちづくりに関して多くの経験や知見を持っておられる、講師の内山秀樹氏とも今回を通じて面識を持つことができ、地区にとって貴重な人脈を得ることができました。
- ・一方、課題としては、本ミニフォーラムの企画検討の時期が、プロジェクトチームメンバーを募集している時期であったこともあり、企画検討の段階からプロジェクトチームメンバーの参画が困難であったこと、また、それにより企画の趣旨・目的への理解や周知が不十分であったため、想定よりも参加者が少なかったことが挙げられます。
また、企画内容についても、意見交換の場はあったものの、時間の都合により発言者も限られていたため、今後実施する場合は、講師と参加者との双方向のコミュニケーションが図れる内容も検討が必要であると考えられます。



(2) まちウォーク

①趣旨・目的

- ・大野地区内を実際に歩きながら、写真撮影や住民・関係者への聞き取りを行うことで、地区の課題を把握してもらうとともに、地域の宝を再発見してもらい地域への誇りや愛着の醸成を図りました。
- ・まち歩きの結果をまとめる作業を通じて、地域住民みんなで地区の宝や課題を共有し、地域課題を自分事として捉えてもらい、できることから主体的に取り組む意識の醸成を図りました。

②開催概要

(1) まちウォークの実施

・日時	令和4年10月29日(土) 午前8時30分～10時30分
・場所	地区内の3つの小学校(有終南・有終東・有終西小学校)
・参加者対象	・プロジェクトチームメンバー ・区長、役員 ・親子の部(小学生とその保護者) 先着5組×3校区 ・地域住民の部 先着10人×3校区 ・ウォーキングの部 先着10人(大野地区スポーツ協会主管)
・参加者数	36名 (内訳)・プロジェクトチームメンバー：6名 ・区長、役員：8名 ・親子の部：7名 ・地域住民の部：11名 ・ウォーキングの部：1名 ・協力者：3名(荒島旅舎、関西大学横町スタジオ)
・ヒアリング先	・有終南小コース：ナマケモノカフェ ・有終東小コース：ママヤキッチン ・有終西小コース：荒島旅舎、関西大学横町スタジオ
・当日の流れ	① 集合・受付 ② コース及び注意事項の確認 ③ まちあるき(約1時間) ④ 振り返り、アンケート記入(約30分) ⑤ 解散・片付け
・周知方法	ポスター、ちらし、館報



有終南小コース



有終東小コース



有終西小コース

(2) まちウォークの振り返り・結果の取りまとめ

・日時	令和4年11月29日（火） 午後6時30分～8時00分
・場所	学びの里「めいりん」1階 ランチルーム
・参加者数	14名 (プロジェクトチームメンバー10名、当日参加者4名)
・当日の流れ	① 当日の振り返り・マップづくり ② グループごとの結果を共有



有終南小グループ



有終東小グループ



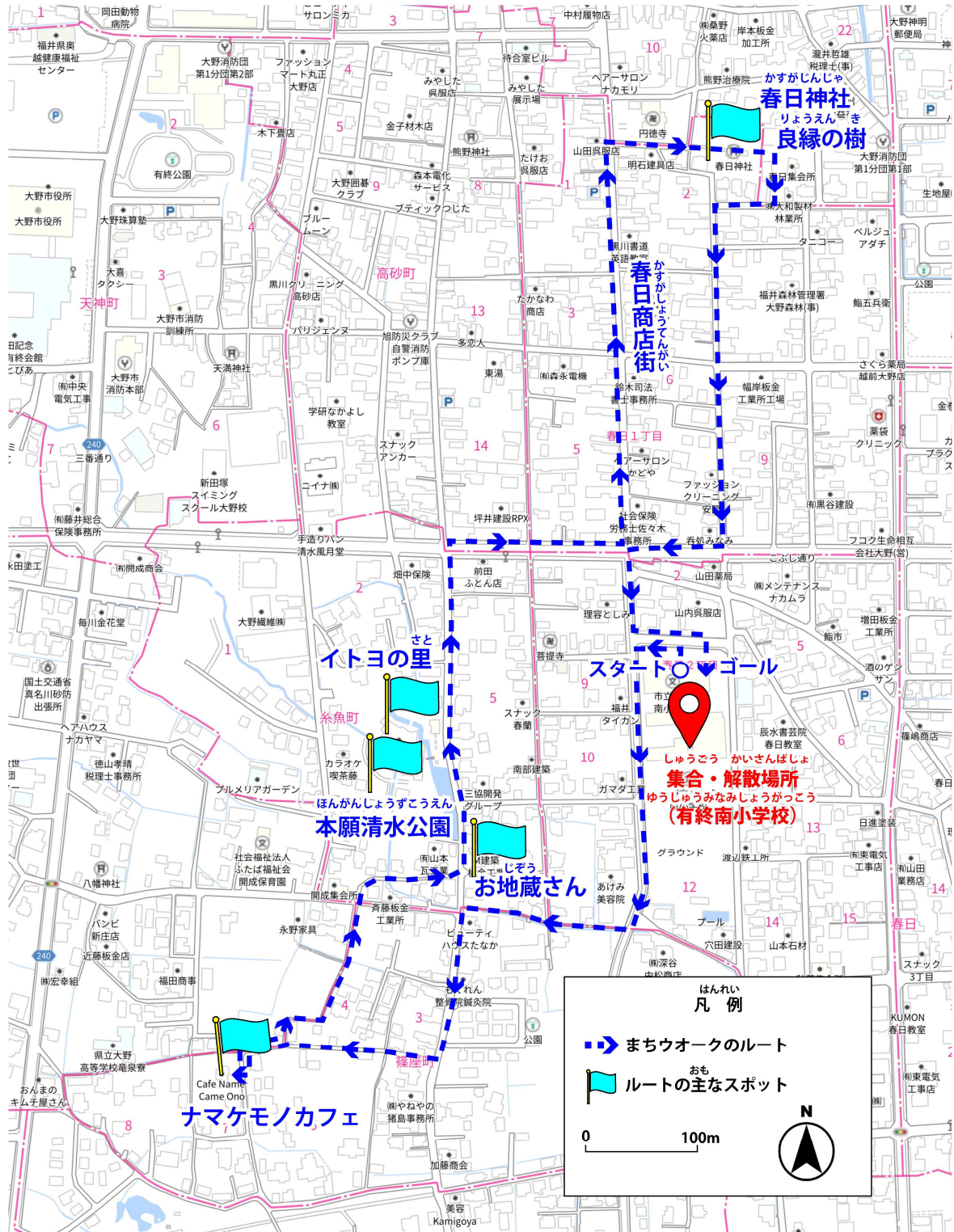
有終西小グループ

③成果と課題

- ・成果としては、当日アンケート結果より、参加者から「楽しかった」、「たくさんの気づきがあった」、「次も参加したい」といった感想が大半を占め、概ね満足を得ることができた。また、その理由として「知らなかった場所に行けた」、「知らない事がたくさんあり、歩くからこそ気づけることがあった」、「若い人が頑張っていると感じた、詳しい話が聞けた」などの前向きな意見を得ることができました。
 - ・さらに、次回もまちあるきを実施して欲しいとの声もあり、今後の取組への意欲向上にもつながったと考えられます。
 - ・まちウォークの振り返り・結果の取りまとめの機会であるプロジェクトチームメンバー会議において、一般参加者や協力者にも参加いただけたこと、また、参加者の気づきだけではなく、地域課題解決に向けて意見やアイデアをいただけたこと、参加者が参加していない他のコースについても、地域の宝や課題、今後の取組のアイデアについて共有を行うことができたことも成果として挙げられます。
 - ・一方、課題としては、想定よりもまちウォークの当日参加者が少なく、特に、プロジェクトチームメンバーが参加していない校区もあったことから、企画段階からプロジェクトチームメンバーが主体的に参画しやすいように、取組に対する理解や意識を高める工夫が必要であったことが挙げられます。
- また、一般参加者に対しても、館報だけではなく、SNSの活用や市内のお店にチラシをおいてもらうなど、様々な方法による効果的な周知方法の検討が必要だと考えられます。

<参考資料1：まちウオーク コース図>

■有終南小学校のコース



■有終東小学校のコース



■有終西小学校のコース



(3) 冬のフォーラム

①趣旨・目的

- ・地域課題の解決に向けて、講師の方から今後の取組に対する知見を得ること、フォーラムの企画検討や当日運営を通じて地域のまちづくり活動の機運醸成を高めること、検討会のこれまでの取組を大野地区にお住いの住民の方にも広く知っていただく機会とすることが目的です。

②開催概要

・日時	令和5年1月28日(土) 午前10時00分～11時30分
・場所	学びの里「めいりん」1階 講堂
・参加者対象	・プロジェクトチームメンバー、区長、役員、一般の方
・参加者数	85名 (内訳)・プロジェクトチームメンバー、区長、役員：36名 ・一般の方：49名
・テーマ・講師	・テーマ：「地域の未来を考えよう」 ・講師：中垣内祐一氏(福井工業大学 教授)
・当日の流れ	① 開催趣旨説明 ② 基調講演・質疑応答 ③ 取組報告
・周知方法	ポスター、ちらし、館報、新聞の折込チラシ、小学校への案内、大野市公式LINE

③成果と課題

- ・成果としては、プロジェクトチームメンバーや役員の方にいただいたご意見やアイデアをもとに、フォーラムの講師選定、周知、企画・運営ができたこと、フォーラム当日の司会進行や取組報告、会場の展示物の説明などの当日運営についても主体的に参画いただいたことが挙げられます。
- ・また、当日アンケート結果より、基調講演については、「強み弱みを知って対策を考える」、「独自の文化を大事にする」、「若者に敬意を持って話を聞く」といったご意見があり、今後の取組で必要な考え方やチームワーク、コミュニケーションの図り方等について知見を得ることができました。
- ・地域の取組報告については、「行政区調査は現状や今後の予測が細かく分析されている」、「まちウォークの報告は良かった、わかりやすかった」などのご意見があり、検討会の取組を広く住民の方に周知することができました。
- ・課題としては、講師との調整や周知期間が短期間であったため、十分な調整が困難であったことや参加者が募集定員に満たなかったことが挙げられます。
- ・今後は、地域の未来を担う世代の住民の参画や意見反映について検討が必要です。

<前日準備の様子>

・プロジェクトチームメンバーや役員等で会場設営やリハーサルを行いました。



<フォーラム当日の様子>

■開会挨拶、基調講演・質疑応答



■取組報告（行政区調査結果、まちウォーク）



■会場全体



(4) プロジェクトチーム

①趣旨・目的

- ・プロジェクトチームは、地域課題解決に向けて地域地区（主に若者と女性）と地区団体（主に各校区）から構成され、取組の企画や調査方法の検討を行う組織です。

②メンバーの構成表

- ・プロジェクトチームの人数や年齢層、男女比は以下の表のとおりとなります。

年齢層	人数	うち男性	全員に対する 男性の割合	うち女性	全員に対する 女性の割合
20 歳台	1 人	0 人	0.0%	1 人	5.6%
30 歳台	1 人	1 人	5.6%	0 人	0.0%
40 歳台	6 人	3 人	16.7%	3 人	16.7%
50 歳台	3 人	2 人	11.1%	1 人	5.6%
60 歳台	5 人	3 人	16.7%	2 人	11.1%
70 歳台	1 人	0 人	0.0%	1 人	5.6%
80 歳台	1 人	1 人	5.6%	0 人	0.0%
合計	18 人	10 人	55.6%	8 人	44.4%

③開催概要

開催日	会議名	議 事
7 月 28 日（木）	第 1 回 プロジェクトチーム会議	・プロジェクトチームの概要 ・メンバーの役割
9 月 5 日（月）	第 2 回 プロジェクトチーム会議	・夏のミニフォーラムの企画検討 ・基礎調査方法の検討 ・まちウォークの企画検討
10 月 20 日（木）	第 3 回 プロジェクトチーム会議	・まちウォークの企画検討 ・夏のミニフォーラムのふり返し、 冬のフォーラムの企画検討
11 月 29 日（火）	第 4 回 プロジェクトチーム会議	・冬のフォーラムの企画検討 ・まちウォークのふり返し、結果とり まとめ
1 月 12 日（木）	第 5 回 プロジェクトチーム会議	・冬のフォーラムの企画検討

④成果と課題

- ・プロジェクトチーム会議を通じて地区内の動向や様々な取組について定期的に共有ができること、まちウオークやフォーラムなどの具体的な企画を検討する際に、プロジェクトチームメンバーの役割分担を明確化することで主体的に参画いただけたこと、会議の意見交換の際にワークショップ形式を取り入れることで議論が活発化してきたことなどが挙げられます。
- ・特に冬のフォーラムでは、企画段階から参画し、当日は今年度の活動の成果を自らの言葉で対外的に発表するなど、大野地区のまちづくりを担うチームとして主体性を発揮することができました。
- ・また、まちウオークやフォーラムの参加者からプロジェクトチームのメンバーとして参加を希望する方が現れ、少しずつメンバーの拡充ができています。
- ・引き続き、プロジェクトチームメンバーや区長、役員の方にはメンバー募集の声掛けを行っていただくとともに、みんなが気軽に参加できる会議の雰囲気づくりや、会議欠席者への会議内容の共有を行うなどのフォローによって、さらに主体的に多くの意見を発言できるよう誘導すること、メンバーの意向を踏まえて活動内容を検討することなどの工夫が必要であると考えられます。また、既に活動している若者のグループやまちづくり活動の実践者と連携しやすい人的ネットワークづくりも必要です。



<まちウォーク結果取りまとめ>

■有終南小学校のコース



■有終東小学校のコース



■有終西小学校のコース

